



# 長谷川たかこ

区議会レポート

長谷川たかこは3期12年、足立区全域を歩き回り、多くの区民の皆さまの声を行政に届け、制度の谷間に落ちて苦しんでいる方々の支援策を構築してきました。これからも、区民の皆さまと一緒にこの足立区から必要な支援制度を新たに構築し、皆様と一緒に足立区を全国で一番といえる足立区に必ずしていきます。

## 足立区は23区の中でも、 がん支援が非常に乏しいのが現状です。

足立区「がん対策アクションプラン」  
「がん対策推進条例」の制定を求め、  
総合的ながん対策の推進を求めています。

◎厚生労働省が示している「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」を活用し、足立区内の企業に対して周知・啓発を行っていきます。

◎長谷川たかこは、がん患者やがん体験者、そのご家族が住みなれた地域で質の高い生活を送ることができるよう手厚い支援施策の構築を求め、がん支援の飛躍的な向上に向けた政策提言を2018年12月第4回定例会で行いました。

◎役所の回答は何れも『研究・協議・検討』との回答でしたが、長谷川たかこは粘り強くその実現に向けて全力で取り組んでいきます。

### ◆長谷川たかこは、足立区版マギーズ東京を目指す!

2016年10月東京都豊洲にマギーズ東京が新設されました。がんに悩む人が、不安をやわらげるカウンセリングや栄養、運動の指導が受けられ、仕事や子育て、助成金や医療制度の活用についてなど生活についても相談をすることができます。江東区ではこのマギーズ東京に委託し、仕事帰りに立ち寄れる相談拠点として、働くがん患者向けの夜間相談窓口を昨年4月から開設しました。

◎看護師、心理士、栄養士などの多職種の専門家が揃う相談窓口を設けて、リハビリテーション支援のほか、外見の変化に対するアピランス支援なども対応できる施設をこの足立区にも創るよう強力で区行政に働きかけていきます。

### ◆就労問題

AYA世代、つまり15歳から30歳前後の思春期、若年成人、中高年のがん体験者も増えている中で、その後の人生を行政がサポートし、早期に社会復帰できることが、日本においてこれから迎える超高齢化社会に向けた重要な課題です。

がん罹患したことで休職したり、再就職ができなくなるなど、当事者の皆さんは就労に悩まされています。がん対策推進基本計画では、働く世代へのがん対策が重点課題に位置づけられています。しかし、足立区では、がん罹患した方に対する就労支援が行われていません。

### ◆がんの先進医療を受けるための補助制度をつくろう!

がんは原則、私傷病であることから、業務上疾病と違って会社責任で手厚い対応をとることが難しい状況です。がんの治療費を軽減するには、高額療養費制度や傷病手当など公的保険による手当がよく活用されますが、再発や転移で治療費の出費がかさむと、それだけでは十分ではありません。厚生労働省が保険外併用を認める先進医療を受ける場合は公的保険がきかないため、患者にとって大きな負担となります。

先進医療は重粒子線治療で約300万円と高額の治療費の工面がネックとなります。

世田谷区では、昨年4月からがん患者への支援として重粒子線治療などの治療費を金融機関から借りる際の利子を補給する制度を開始しました。融資額の上限は350万円。区内在住であれば所得制限等はなく、1.25%の金利を全額負担してもらえるので、元本のみ返済となります。豊島区でも先進医療を受けるための専用ローンを設けています。

◎がんの先進医療を受ける予定のある区民に対し、治療費を金融機関から借り入れる際の利子を補助する制度を設ける区に求めています!

### ◆がん治療に伴う外見(アピランス)ケアへの助成制度を!

がんの治療による外見の変化は就労意欲にも影響することから、外見支援の専門スタッフやウィッグ等の利用に関する支援が望まれています。港区では、2017年度に、医療用ウィッグや胸部補正具などに300万円を計上し、初年度の申込件数は93件あり、半数が30~50代からの申し込みで、好評を得たそうです。2018年度も申込件数は2017年度と同程度になると想定し、前年度と同額の予算300万円を計上して引き続き支援をするそうです。

◎医療保険の適用対象外となっている医療用ウィッグや胸部補正具などの購入経費の一部を足立区が助成するよう区に求めています。



早稲田大学  
マニフェスト研究所  
マニフェスト大賞

第5回

最優秀政策提言賞「行政街づくりへのユニバーサルデザインの導入」

第12回

優秀政策提言賞「生きづらさを抱えた人」に対する支援事業の構築

第13回

優秀政策提言賞ノミネート「妊娠・出産・育児等と働き方の両立支援」

長谷川たかこの政策提言が全国トップレベルの取り組みとして進んでいます!

## 安心して子育てできる環境づくり。 「病児保育」が東部地域病院に開設されました！

私が政策提言をし要望していた「病児保育」が、2019年2月から東部地域病院で開設されることとなりました。

足立区には※2箇所の病後児保育施設(サービス)があるのみでした。  
※区立あやせ保育園「すくすくルーム」と私立西新井きらきら保育園「げんき」(各施設、定員4名)

これでは、小さな子どもが体調を崩した時に預けることも出来ず、仕事を休まざるを得ない状況になってしまいます。中には多少、体調が悪くても、いつも利用している一般の保育施設に預けてしまうケースも多いようです。

今後もさらに「病児・病後児」の保育施設(サービス)を充実させ、本当に困った時に頼れるサービス、子育て中のお父さん、お母さんが安心できる体制作りを長谷川たかこは全力で目指していきます。

ご意見・ご要望は…

長谷川たかこ

活動や政策の詳細はホームページをご覧ください

<https://takahase.weblogs.jp>

長谷川たかこの政策2019

ご意見・ご要望はEメールへ  
[info@takahase.com](mailto:info@takahase.com)



このレポートは、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構\*のアドバイスのもと、色覚の個人差を問わずご覧いただけるようカラーユニバーサルデザインに配慮して作成しました。(ロゴやイラストは対象外)  
\*カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)とは、色覚バリアフリー/カラーユニバーサルデザインへの配慮を啓発する活動を行うことを目的に2004年に設立されたNPO法人です。

## がん患者、がん体験者の本当の闘いは、病院を離れてから。

日本では、一年間に約100万人が新たにがんになると推定される時代です。

都内のがん患者数は30年間で2倍に増加しています。政府はがん対策基本法に基づき、がん対策推進基本計画を策定し、がん医療、がん予防、早期発見等にかかわる各種対策を推進しています。病院ではがん治療後のセルフケアについてまでは教えてくれないため、がん患者は増えているけれども、医療では追いつかない課題が山積しています。

がんになると、いろいろなことが思い浮かぶのではないのでしょうか。治療のこと、日々のくらしのこと、医療者との付き合い、家族のこと、学校や仕事のこと、お金のこと、身近ながんの人にどう接したらいいか、たくさんの医療情報の中から自分に合うものをどう見つけるか…。治療が終わっても、後遺症や副作用を我慢して生活する人や再発の不安、死への考え方など、様々なことが脳裏をよぎり精神的な苦

痛を一人で抱えている人は少なくありません。そして、いつも体の不調を抱えていなければならないことは、大変苦しいことでもあります。

今までのがん医療の考え方では、がんを治すということに関心が向けられていました。しかし、その後どのように生活をしていくのかという療養生活の質もがんを治すことと同じように大切です。がん患者やがん体験者が尊厳を維持しながら「その人らしさ、自分らしさ」を大切に安心して暮らすことができる社会を構築することが求められています。

医療のみならず日々の暮らしの中で、その後の人生を豊かに過ごし、がん患者、がん体験者、そしてそのご家族が必要と考える支援を私はこの足立区で強力的に構築して行きたいと思います。

「自分らしく生きる  
ことができる足立区」  
をつくりたい!

検診や治療と並んで大変なのは、  
がんを患ってから「いかに生きるか」  
「いかに支えていくか」です。  
がん患者の皆さまが  
「自分らしく生きることのできる社会」を  
この足立区から  
全力で構築していきます。